

第2期 文化芸術推進基本計画に対する意見

公益財団法人全国書美術振興会
理事長・代表理事 高木聖雨

日本の伝統文化としての書道の重要性

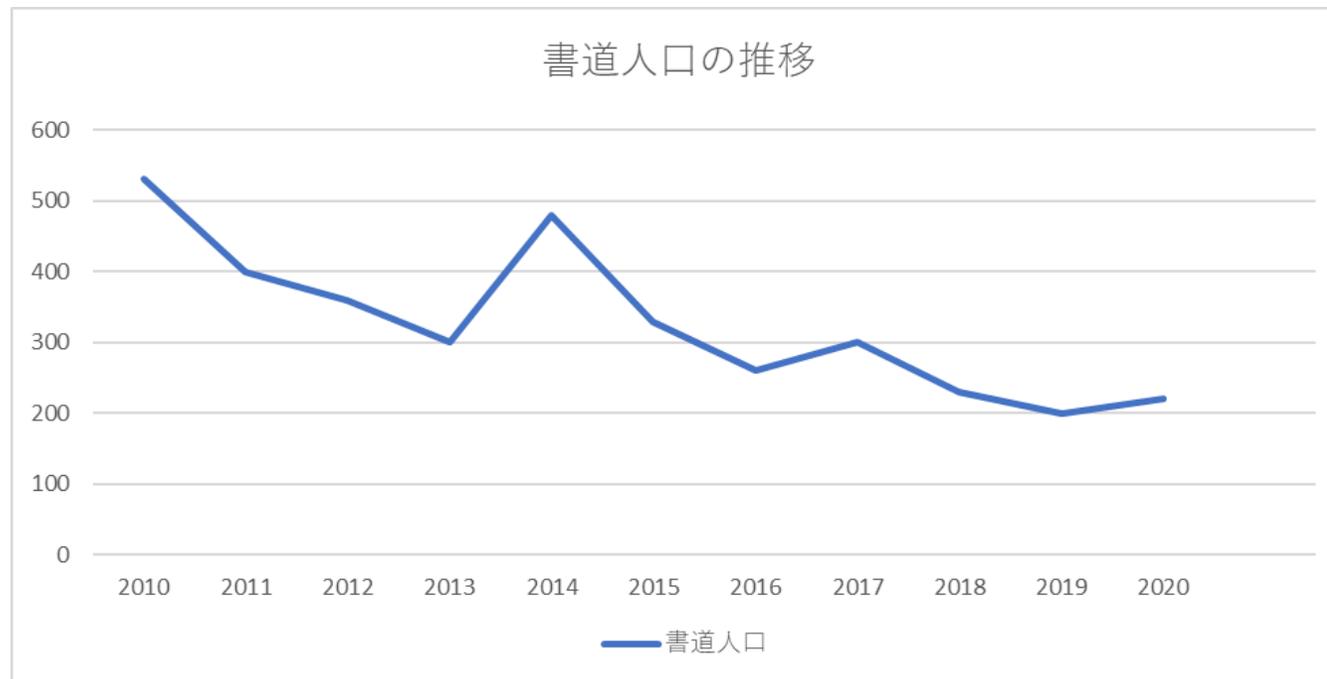
- 日本の書道文化は伝統行事や冠婚葬祭を通して国民生活に根付き、文字文化としての永い歴史と伝統を支え、国語力とりわけ識字力を根底から支えてきた。この日本の書道文化を保護し、我が国の文化力、文字力を次世代へと力強く継承していく必要がある。
- 昨年、文化財保護法が改正され、新たに登録無形文化財制度が創設された。その登録無形文化財の第1号として昨年12月に「書道」が登録されたことにより、日本の伝統文化としての「書道」の重要性が再認識された。
- 一方で、パソコンやスマートフォンの普及などによって手書きの機会が減少し、書道人口が減少傾向にある。この現状に呼応して、毛筆文化の喪失に危機感を抱き、文化として継承していかなければならない。

書道の現状

○書道人口が10年間で半数以下になり減少傾向

(単位：万人)

西暦	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
書道人口	530	400	360	300	480	330	260	300	230	200	220



書道人口の推移(レジャー白書より)

調査方法

全国の15歳以上男女約3000人を
無作為抽出

参加率に人口比を乗じて算出

○減少の原因

- パソコン、スマートフォンの普及により手書き文字の機会が減少
- 書道を習う年齢層が高齢者に多く若者が少ない

○今後の懸念

- 書道人口の減少により日本の伝統文化が衰退
- 書道人口の高齢化により今後減少の加速化が進む

書道団体による現在の取り組み

○全国書美術振興会

- 会派を超えた「日本の書展」の開催
- 10歳以下の子供を対象とした書道体験イベントの実施(筆もじにトライ！)



日本の書展



筆もじにトライ！

書道団体による現在の取り組み

○日本書道文化協会

伝統的書道の普及振興(登録無形文化財「書道」の保持団体)

- 会員書家によるシンポジウム・特別揮毫会の開催
- 高等学校への会員書家の派遣事業の実施
- 誰もが気軽に書道を体験できる「街なか書道体験」の実施



シンポジウム・特別揮毫会



高等学校への派遣事業



街なか書道体験

書道団体による現在の取り組み

○書写・書道教育推進協議会

小中高等学校を中心とした学校教育での書写・書道教育充実方策の検討・実施

○日本書道ユネスコ登録推進協議会

書道のユネスコ無形文化遺産登録を推進するための活動の実施
(署名活動・大臣への要望等)



日本書道ユネスコ登録推進協議会 ポスター

学校での書道普及の取り組みに係る課題と要望

学校の書写・書道の通常授業時間

小学3年から6年（国語科の一領域）	年間30時間
中学1年2年	年間20時間
中学3年	年間10時間

高校 芸術教科 音楽Ⅰ・美術Ⅰ・工芸Ⅰ・書道Ⅰのうちの1教科選択必修
(2単位:1単位は35時間)
書道Ⅱ・書道Ⅲは選択科目

→小・中・高となるにつれて書道体験の時間が減少

学校での書道普及の取り組みに係る課題と要望

○課題

- 書写の実際の授業が標準授業時間に達していない例があるので、確実に実施されるようにしてほしい。
- また、国語の授業時間に加えて、総合学習の時間や部活動時間なども利用して書道体験を実施してほしい。
(書道家を派遣し児童・生徒に教えることは十分対応可能である。)

○要望

- いつ、どの学校で教えればよいのかをアレンジする仕組みを整えてほしい。

一般市民への書道体験の普及に係る課題と要望

小中学校での毛筆体験

→高校、大学、社会人になると毛筆体験の機会がほぼなくなる

→書道人口の減少の一因

このため書道をやらなくなってしまった人たちに書道を気軽に体験してもらう場を提供

→「街なか書道体験」の実施

○課題

- 筆ペンと用紙を準備して体験スペースを設ける場合、施設管理者から常時監視できるような対応を求められる。
- 公共スペースを設けて書道体験イベントをやるには準備が大変な割には集客が難しい。

○要望

- 一定の集客が見込めるよう、書道その他の伝統文化の体験ができるイベントを地域団体などが開催し、書道などのブースを設けることができるようにアレンジする仕組みを整えてほしい。